



# て と て



発行:青森市教育委員会事務局文化学習活動推進課 (Email:bunkagakushu@city.aomori.aomori.jp)

〒030-0801 青森市新町 1丁目 3-7 TEL:017-718-1384 FAX:017-718-1372



今年も暑かった長い夏休みが終わり、各校の校舎では、真っ黒になった子供たちの元気な声がこだましているのではないかと思います。推進員、CSD、ボランティアの皆様におかれましては、3学期制のところでは2学期、2学期制のところでは前期後半の活動が、円滑にスタートしたことでしょう。

少し遅くなりましたが、今号は、夏休み前に行われた研修講座・事務連絡会議についてお知らせします。

## 家庭・地域教育力向上研修講座

青森市教育研修センター

市教育委員会では、学校と家庭・地域が一体となった家庭教育の推進・強化に向けた取組として、教職員・保護者（地域の方含む）を対象に今年度5回の講座を行いました。各回とも100名以上の参加があり、講師による講話後、各グループに分かれての話し合いを行いました。最後はいつも時間が足りなくなるほど熱く話し合う姿に、改めてこの研修講座を開催してよかったと感じております。

参加された皆さん、どうぞこの研修で得たもの、考えたものをそれぞれの場で活用していただければ幸いです。



### 【講座①】みんなで学ぶ家庭の役割 〈5/21〉

- 〈講話〉○青森市のいじめと不登校の現状と取組 [市教委指導課指導主事 猪股典生 氏]  
 ○不登校の娘とかかわって [元中学生の生徒をもつ保護者]  
 ○いじめと向き合う～こどものSOSを受け取る～ [スクールカウンセラー 岩田彩子 氏]  
 〈ワークショップ〉



### 【講座②】みんなで学ぶPTAの役割 〈5/30〉

- 〈講話〉○教職員とPTAの良い関係づくり  
 [特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク 理事長 生重幸恵 氏]  
 〈ワークショップ〉



### 【講座③】子どもの成長と食育 〈6/10〉

- 〈講話〉○自校で取り組む食育について [青森市立大野小学校 校長 須藤隆文 氏]  
 ○子どもの成長と食育 [青森中央短期大学食物栄養学科 准教授 木村亜希子 氏]  
 〈ワークショップ〉

### 【講座④】部活動地域移行の進め方とこれから 〈6/24〉

- 〈講話〉○青森市の部活動の地域移行における今後の方針について  
 ・説明 [市教委指導課主任指導主事 福井正治 氏]  
 ・助言 [新潟県長岡市教育委員会 学校教育課部活動地域移行室 課長 石川智雄 氏]  
 〈ワークショップ〉



### 【講座⑤】学校統廃合のあり方〈7/2〉

〈講話〉○子どもを主体とした学校統廃合について ～私の実体験～  
〔旧栄山小学校元 PTA 会長・泉川小学校元 PTA 会長 木立匡英 氏〕  
○人口減少社会における学校のあり方  
～合意形成と居場所づくりを踏まえて～  
〔青森公立大学経営経済学部 准教授 西村吉弘 氏〕  
〈ワークショップ〉



※これらの研修講座では、市 P T A 連合会の方々が毎回数名参加してくれました。  
感謝とともに改めてこれからも互いに手を取り合っていきたいと思います。

## 第2回学校運営協議会・地域学校協働活動に係る事務連絡会議

青森市教育研修センター 〈7/8〉



〈講義〉地域学校協働活動推進員のコーディネートの方法とボランティアの人材育成について

『つながる、つなぐ、わかちあう』

〔 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター コーディネーター  
(アクティブ・シティズンシップ研究所代表) 興梠 寛 氏 〕

〈演習〉コーディネートの課題と解決策を探る

ボランティアとは、コーディネーターとは、コミュニティ・スクールとは等、グローバルな視点での考え方や全国の事例紹介をしながらの講義でした。

その後の演習は、学校、地域、ボランティア、コーディネーターの課題として、5～6名のグループになって話し合いました。

これまでは、参加がほとんど推進員の方々だったのですが、今回は、60名のうち半数が校長・教頭先生方でした。地域学校協働活動、ボランティア活動を推進する本事業が、各学校の教育活動において、重要な位置づけの一つになっている表れではないかと思えます。

### 【感想】(一部抜粋)

- ・昭和の教育を受けてきた我々が「教育＝学校教育」という価値観から脱却し、大人が総がかりで次世代の人材育成に携わらなければならない時代がきたことを痛感しました。
- ・他県の実践事例などは参考になった。校門でのあいさつボランティアなど、ハードルを低く、無理なく子どもたちのためにできることを探して実践していければと思う。
- ・ボランティア活動は「子供たちを助ける」という視点だけではなく「助け合いの姿勢を子供たちに見せる」という視点も大事だなと思いました。
- ・「学校や放課後ボランティアの10の分類とプログラム分類表」が大変わかりやすかった。



※次回第3回事務連絡会議は、11月26日(火)を予定しています。当日は、函館市教育委員会の職員の方と地域コーディネーターの皆さんが参加し、合同の事例発表及びワークショップを行う予定です。他市の地域学校協働活動やCSの様子を知るよい機会になるかと思えます。詳しい日程等が決まりましたら、ご案内しますので、奮ってご参加くださいますよう宜しくお願いします。

編集後記・平成24年(2012年)7月に「学校支援ボランティア通信 てとて」が創刊され、皆様のご理解ご協力の元、12年を経て今回第50号の節目を迎えることができました。時世に合わせて、「地域学校協働活動通信 てとて」、そして現在の「地域学校協働活動&CS 通信 てとて」となっています。今後も皆様のご期待に応えられるような内容の情報誌を目指していきたいと思えます。